

特別優秀賞

思いやりは心の種

静岡県 高南小学校 五年

石川 凌佑

ぼくは、毎日バスで学校に行っています。同じバスで通っている子たちの中に、体の不自由な下級生がいます。その子はちょっと体が不自由だからか、同級生から、

「横入りしないで。」

と言われたり、ほかの子たちからも、

「そうだ、そうだ。」

と、責められるように言われてしまいました。そんな子たちを注意してくれる上級生もいないので、みんなでいやなことをたくさん言っていました。

ぼくは、(どうしてあんなことをするのかなあ) と思っていました。そこでぼくは、少し考えました。(どうしたら、あの子がいやな思いをせずにすむのかなあ) と。そして思いつきました。

(あの子の手伝いをしよう)。

その子は、いつもバスの中でも動きが遅いです。だから、ぼくはその子を軽く押してあげることにしました。そうしたら、少しずつだけど同級生の動きに追いついていけるようになりました。ぼくは、心の中で(よかったあ) と思っていたけれど、ぼくにはまださびしそうに見えました。だから、ぼくはまた考えました。

(どうしたら、あの子も楽しく登校できるのかなあ)。

いろいろ考えて、ぼくは帰りだけでも積極的にその子に話しかけることにしました。その子は、最初はモジモジしていたけれど、少しは仲良くなれたつもりです。そして、少しだけさびしそうな顔もへってきたように見えました。

その後も半年くらい、バスをおりたあともその子の背中を押し続けました。そうしたら、それを見ていた先生がほめてくれました。今では、ぼくの友達も手伝ってくれています。

ぼくは自分のやったことで、いろいろな人が気持ちよくなってくれることがうれしいです。ぼくが背中を押したあの子は、今では前よりも速く歩けるようになっています。

「いっしょに遊ぼうよ。」

と言ってくれる友達もできたみたいで、前よりも楽しそうに思えます。

ぼくのしたことはちょっとしたことだけれど、このことで、ぼくは最近こう思うようになりました。(もしもまた、あの子にいやなことを言う子がいたら、今度は注意できるようなやさしくて、カッコいい高学年になりたい) と。

「思いやりは心の種」。小さな行動でも、それがだれかの状況を変えることもできるし、見た人にもえいきょうを与え、自分の心にも新しい気持ちをつくることがあります。小さな行動が種になり、いろんな人の心で育つといいです。